

氏名	中 村 正 人
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 224 号
学位授与の日付	昭和42年 6 月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 5 条第 2 項該当)
学位論文題目	人脳組織の水解酵素および脱水素酵素の組織化学的研究 第1報 正常脳組織 (主として大脳) について 第2報 脳腫瘍組織について
論文審査委員	教授 田中 早苗 教授 砂田 輝武 教授 水原 舜爾

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

正常脳組織の解糖およびアミノ酸、脂肪酸代謝に関する酵素活性は髄質より皮質に強く、また神経細胞における活性の増減は神膠細胞でのそれより著しかった。alkaline phosphatase, β -esterase は皮質、髄質とも低活性、好氣的解糖系の酵素は全例とも高い活性を示した。小脳では各酵素とも Purkinje 細胞に非常に高い活性をみた (第1編)。glioma では alkaline phosphatase の活性が出現し、glioma の組織学的分化度が低くなるにつれこの酵素活性が低下をみたが acid phosphatase 及び脱水素酵素ではこのような傾向をみなかった。meningioma では alkaline phosphatase 活性は fibroblastic 型で最も高く、malignant 型で微弱または陰性、meningocytic 型で中等度を示したが、その他の水解酵素および脱水素酵素の活性には特別の所見をみなかった。neurinoma の酵素活性には著しい特長をみなかった。なお glioma では alkaline phosphatase 活性が低いほど予後不良の傾向があり、とくに活性のない例では予後不良のものが多かった。

岡山医学会雑誌 第77巻10, 11, 12号昭和40年12月30日および全79巻1, 2号昭和42年2月28日に掲載

論文審査の結果の要旨

本研究は、人の正常及び腫瘍脳組織における各種の水解酵素ならびに脱水素酵素の活性分布を組織化学的に検討したもので、従来の同種研究でなし得なかった酵素活性の統計的処理により特定の酵素活性と脳腫瘍組織像、及びその臨床所見との関連で重要な知見を与えるものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。